

つないだ王者のプライド

小松大谷連続優勝 北信越選手権 自由演技高校の部

2日に富山市総合体育館で開かれた北信越選手権の自由演技競技 高校の部で、小松大谷高（石川）が連続優勝した。結果報告で勝利が決まると、この日演技した16人が喜びの声をあげて小さな輪になった。大切にしているチームワークを象徴する瞬間だった。

ディフェンディングチャンピオンは、参加6校中の6番目、最後に登場した。通常ならば、先にライバルたちの演技があり、プレッシャーも出てきて無心になることが難しい演技順だ。だが、キャプテンはそれを喜んで、「最後なのは、逆に嬉しかった。自分たちが良い演技をすれば、印象がよくなって得点も伸びる。他の学校の演技は気にしていなかったし、大丈夫と信じていた」

演技の立ち上がり、1曲目の最後に2-2-3で3人が3層目に乗る大技に挑んだが、バランスを崩して1人しか成功しなかった。しかし、そこからあきらめない北信越高校王者のプライドが発揮されていった。以降は準備してきた技を的確に決める。難しいピラミッドにも思い切って挑戦し、得点を伸ばしていった。



昨年は最上級生が12人いたが、今年は半分の6人しかいない。「チームがバラバラになってしまったこともあったが、最後は団結することが出来た。去年の先輩方がこの大会で優勝してくれて、その栄光をつなぐことが出来ました」とキャプテンの笑顔がはじけた。この大会後に引退する3年生の選手がいる。勉強に専念するため、JAPAN CUPには出場しない。6人そろった大会は、この日が最後だった。



「大技の2-2-3を見せられなかったのは悔しい。これからもっと練習して、JAPAN CUP では絶対に決めたい」悔しさがにじんだ。指導するチームの監督も、「普段、2-2-3は3人全部が乗れているので、それを決めて優勝したかった。JAPAN CUP では残った3年生5人が悔いの残らないように頑張っていて欲しい。今度こそ、3人全員が乗って、笑顔で終わりたいですね」と話していた。



本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.